

神の母聖マリア

2012.1.1

ルカ 2・16-21

今日私たちは2012年の新しい年の初めの日を迎えました。けれども私たちは、この新しい年の初めにあたって、「新年おめでとうございます。」「明けましておめでとうございます。」と挨拶を交し合うことに、ためらいを感じるかもしれません。私たちが迎えたこの2012年の新しい年は、私たちが生きた2011年を引きずったままであることを、私たち自身がよく知っているからです。そのような現実の中で、「新年おめでとうございます。」と互いに交し合う新年の挨拶は、私たちの心の中にどのように響いているのでしょうか。湿った重い雪に覆われた木々の、新芽をつけた枝先が朝の光の中でその重みを跳ね返すような、そんな新年の心を全ての人のために祈りたいと思います。

迎えた2012年の最初のみさの福音は、ベツレヘムの馬屋に急ぐ羊飼いたちの姿を私たちに示しています。そしてその羊飼いたちの姿は、この年の初めに当たって私たちがなすべきことを私たちに教えています。清清しく整えられた食膳に向って家の者たちだけで祝うお正月は、それだけでは、2011年の後に迎えたこの新年にはふさわしくないように思われます。私たちが集うこの新年のみさも、私たちがその中に生きてくる現実を締め出して、私たちだけの恒例の元旦のみさとしてしまうなら、伝統とはいえ、いかにも人為的な祝い事になってしまうのではないかと思います。私たちは新年を、人為的な祝い事をもって、自分たちで作り出すではありません。私たちは2011年を自分たちの手で終わらせて、2012年の新年を自分たちで引き寄せたではありません。迎えた2012年の新年は、2011年の現実を生きた私たちの上に、等しく訪れたのです。2012年の新年を迎えた私たちの心の新たな決意と祈りの根拠はそこにあります。ベツレヘムの馬屋に急いだ羊飼いたちのように、私たちも、2012年のこの新しい年の初めが私たちにもたらす希望に向って、力強く歩み始めたいと思います。

そのためにも、私たちはもう一度あのクリスマスの夜に戻って、羊飼いたちの後を追わねばなりません。羊飼いたちがベツレヘムの馬屋に急いだのは、彼らに現れた天使のことばを信じたからです。ここに集う私たちも、羊飼いたちに告げられた天使のことばを信じて、クリスマスを祝ったはずです。そしてそのクリスマスが私たちにとってどのような意味を持つものであるかを、私たちもあの羊飼いたちと同じように受け止めたはずです。

「恐れるな。わたしは民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの

町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」クリスマスの夜、私たちの上にも響いた天使のことばです。

クリスマスを祝うということは、クリスマスを祝う私たちの中に、今も、あの最初のクリスマス夜の天使のことばが響いていることを受け止めるということです。クリスマスを祝った私たちが、天使によって告げられたクリスマスのメッセージをしっかりと受け止めることが出来るなら、迎えた2012年が私たちにとってどのような年となろうとも、私たちもあの羊飼いたちのように新たに歩み始めることが出来るに違いありません。羊飼いたちは、見聞きしたことが全て天使の話したとおりであったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行ったと語られています。羊飼いたちが帰って行った行く手には、昨日までと何一つ変わっていない現実が待ち受けていたことでしょう。しかし、そこに向って、その何一つ変わってはいない彼らの生活の中へ、彼らは神をあがめ、賛美しながら帰って行くことが出来たのです。彼らは自分たちの現実の世界の中に生まれ出てくださった救い主に、真実出会うことが出来たからです。私たちが祝ったクリスマスが、クリスマスを祝った私たちの信仰が、あの羊飼いたちの姿に示されているようなものになることを願いたいと思います。

私たちが生きるこの現実の世界に、その愛する御子を乳飲み子の姿で遣わしてくださった父なる神が、その御子とともに生きるべきこの新たな年を私たちのために開いてくださったのです。私たちがその中に生きるべく与えられた、この新しい年は、そこに愛する御子を遣わしてくださった父なる神の計らいのもとにあるのです。クリスマスの羊飼いたちは、その神の計らいをたたえ、賛美しながら、昨日までと変わる事のない彼らの現実に向って新たに歩み始めたのです。その羊飼いたちの心のうちに響き続けた神をたたえる賛美の歌は、あのクリスマスの夜に天に響いた天使たちの賛美の歌のこだまのようであったに違いありません。

「天のいと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」

クリスマスの夜空に響いた天使たちの賛美は私たちの心にもこだましています。新年を迎えた今日のミサの中でも、私たちはこの天使たちの賛美の歌声に応じるようにして、栄光の賛歌を声高く歌いました。天使たちが歌った、そして羊飼いたちの心にこだました栄光の賛歌が、新しい年の現実の立ち向かう私たちの心を奮い立たせることを願いたいと思います。

そのためにも、今日歌った栄光の賛歌のことばに心を向けたいと思います。幾重にも繰り返される、神への賛美に続いて、私たちは、「世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。世の罪を除きたもう主よ、われらの願いを聞

き入れたまえ。父の右に座したもう主よ、われらをあわれみたまえ。」と歌いました。私たちが歌う栄光の賛歌の中の、神への賛美とこの嘆願の祈りとはどのように結ばれているのでしょうか。

クリスマスの夜、天使たちが歌った神をたたえる歌は、この私たちの現実の世界にその御子をお遣わしになられた神の愛の栄光をたたえる賛美の歌だったのです。世の罪を除くためにその愛する御子を、私たちの人の世に遣わして下さった神の愛の偉大さをたたえ、この人の世の現実に生きる私たちに救いを告げる歌声だったのです。

この新年にあたって、天に響く天使たちの歌声に合わせて、私たちもこの地上から、この地上に生きる全ての私たちのために、声を限りに神のあわれみを求めて歌いたいと思います。「世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。世の罪を除きたもう主よ、われらの祈りを聞き入れたまえ。」2012年の現実に向って歩み始めようとする私たちにふさわしいこの祈りの歌を、心の底から歌うことが出来る時、私たちは真実、クリスマスの夜、私たちの中にお生まれになった救い主を、私たちの救い主としてお迎えすることが出来るのです。そのことによって、私たちの世界の中にその愛する御子をお遣わしになられた父なる神の愛の偉大さを、天の天使たちとともにたたえることが出来るのです。

あのクリスマスの夜の出来事を全て、そのお心の中に納めて思いめぐらされた聖母が、2012年の現実に立ち向かおうとしている、この時代の羊飼いたちである私たちの全ての歩みの行く手を、そのお心の中に納め祈り続けてくださることを願って、そのことを信じて、この新しい年の最初のミサをともにおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高